

甲賀市地域福祉(活動)計画

第3回策定委員会議事録(要約版)

- 日 時：2006年 2月21日 午後1時30分～4時00分
- 場 所：甲賀市水口社会福祉センター 2階中会議室

甲賀市地域福祉(活動)計画策定委員会事務局

第3回 甲賀市地域福祉(活動)計画策定委員会 議事録

【次第】

- 1 あいさつ
- 2 協議事項
 - (1)第2回策定委員会議事録の承認について
 - (2)市地域福祉(活動)計画策定に係る市民ニーズ調査の集計結果について
 - (3)市地域福祉(活動)計画策定に係る施設・団体調査(案)について
- 3 その他
 - ・地域福祉大会の開催について
 - ・質疑

【出席委員】

策定委員14名 津止委員長、金子副委員長、山口委員、藤本委員、横井委員、辻委員、吉田委員、城山委員、坂本委員、杉本委員、林田委員、田代委員、市岡委員、松山委員

ワーキングスタッフ(市行政職員スタッフ・市社会福祉協議会スタッフ・大学スタッフ)

【配布資料】

- ・第3回甲賀市地域福祉(活動)計画策定委員会次第
- ・第2回策定委員会議事録
- ・「甲賀市民の暮らしと地域福祉に関する意識調査」調査のまとめ
- ・市民意識調査の自由記入一覧
- ・「地域福祉(活動)計画策定のための福祉団体調査」(案)
- ・「地域福祉(活動)計画策定のための地域活動団体調査」(案)
- ・第1回甲賀市地域福祉大会のリーフレット

事務局:それでは、定刻が参りましたので、第3回甲賀市地域福祉(活動)計画策定委員会を開催いたします。最初に、津止委員長よりご挨拶をお願いします。

1 あいさつ

津止委員長:

昨年11月1日に行いました第2回策定委員会から早くも4ヶ月近くが経とうとしています。その間、ワーキング会議は4回、12月26、27日は集中合宿を行うなど、随分と作業を重ねて参りました。本日、検討していただきます市民ニーズ調査におきましても、12月1日から15日にかけて5000人に対して行い、4割を超える回収率を得る事ができました。集計結果の分析から、地域福祉についてどのような課題があり、そこからどのような方向で地域福祉計画を作り上げていくのか、丁寧に積み上げていきたいと思えます。また、合併市では初めての本格的な調査であることから、他市のモデルとしてもらえるような計画になることを願っています。本日の委員会においても、熱心な議論をよろしくお願ひ申し上げます。

2 協議事項

(1) 第2回策定委員会議事録の承認について

委員長:第2回策定委員会議事録の内容について異議はございませんでしょうか?

(委員から異議なしの声)

委員長:ありがとうございます。第2回策定委員会議事録は承認されましたので、議事内容を市ホームページ上に公開いたします。

(2) 市地域福祉(活動)計画策定に係る市民ニーズ調査の集計結果について

委員長:昨年の12月に5000人にニーズ調査を行い、2006人の市民から意見をいただくことができました。末尾の自由回答欄には、2006人中747人の記入があり、37%という記入率は、この手の調査にしましては非常に高い割合であるといえます。記入内容の詳細は皆様のお手元にお配りしてありますので、ぜひ一つひとつの意見に目を通していただきたいと思います。それでは、市民ニーズ調査の集計結果について、概要を説明させていただきます。

(大学側より概要の説明)

委員長:集計結果は市全体としての結果だけではなく、旧5町の属性ごとにまとめてあります。調査結果から、甲賀市民、旧町別の現時点での福祉に対する意識が表れていると思います。調査そのものの分析の視点や方法、あるいは他の調査との比較検討の仕方、また、地域福祉(活動)計画につなげていくための活用の仕方など、率直なご意見をお聞かせ願います。

委員:旧5町別にデータ分析されていますが、地域交流という視点が少し弱いように思います。例えば、旧土山町は近所づきあいの程度が高くなっていますが、旧土山町は新興住宅の少ない地域だと思います。新興住宅が良いとか悪いとかではないのですが、地域特性を見る際に、新興住宅の有無は無関係ではないと思います。新興住宅とそうでない地域との比率はわかりますか?

大学側:調査票を作成する過程において、当初は新興住宅地域や工業地域等、住んでいる地域の特性を尋ねる設問が含まれていました。しかしながら調査票のボリューム等の関係で設問数を絞り込む必要があり、最終的には削除したというのが実状です。関連する設問である居住歴や居住年数とクロスすることによって、地域特性として見ていくことはできると思われれます。必ずしも居住年数の浅い地域が新興住宅地域と合致するとは言えませんが、新しい地域と古くからの地域、そういった地域特性を意識した分析を加えていきたいと思えます。

委員長:分析は、旧5町だけでなく23の小学校区ごとに見ることも可能です。新興住宅地が多くを占める小学校区とそうでない小学校区という視点を意識しながら分析を進めると、より地

域特性が鮮明になるのではないかと思います。

委員：高齢者分野の課題が大部分を占めると思うのですが、一方で元気な高齢者もたくさんいらっしゃると思います。例えば小学校の登下校を見守るボランティアを元気な高齢者にしてもらったり、生きがいをもって地域活動に参加できるような工夫をすればよいのではないのでしょうか。少子高齢化だから担い手がいないというのではなく、担い手は作るものだと思います。若い人の力ばかりではなく、高齢者の力を活用することは充分できると思います。

委員長：問16の地域の課題の自由回答にも、元気な高齢者に活躍してもらいたいという意見が多く寄せられています。

大学側：甲賀市では75歳以上を高齢者とする、と計画の中で主張してはどうかと思います。

委員：32ページの生活環境の評価では、「公的施設等のバリアフリー」の評価が低くなっていますが、47ページの自由記入分類ではバリアフリーに関する意見が6件しか上がっていません。もう少し多くてもよいと思いますが、どのように解釈したらよいのでしょうか。

大学側：自由記入の分類はキーワードによる検索をしているため、「バリアフリー」の単語を使った記入が6件あったという意味で、段差解消の要望など、バリアフリーに関する記入が6件しかないということではありません。大部分は「交通・道路」に集約されています。（補足：「交通・道路・バリアフリー」として再分類。）

委員長：公的施設等のバリアフリーについて、25%の人が「悪い」と回答しています。具体的にどういったところに問題を感じているのかを拾うことが大切ですが、これらの生活環境の評価を地域活動の視点で捉えた場合に、どのように目に見える課題にしていくかが問われているのではないかと思います。

委員：障害者（特に精神障害者）に対する関心は低いと思います。高齢者だけでなく、障害者の地域福祉にも力を入れていただきたいと思います。

副委員長：障害者の人数でいうと、人口の5%ほどであり、少数の意見がみんなの問題になっているかというとなかなか難しい部分があります。たとえば、31ページの分野別の課題に、「障がい児・者と障がいの無い人が地域で共に暮らすこと」というノーマライゼーションに関する設問がありますが、「そう思う」の回答は54.0%と半数以上あり、「そう思わない」は4.2%に止まっています。しかしながら、実際に地域に障がい者が利用する施設を作るとなると、何度も説明会を開く必要があり、それでも住民からの反対があったりします。反対をされたのは4.2%にあたる人だったのか、それとも概念としては「そう思う」であっても、現実としては受け入れられていない人が多いのかもしれませんが。アンケートの結果では「そう思う」が多くなっていますが、現実としてはどのように捉えているのか、さらに踏み込んでいく必要はあると思います。実態として地域にある課題を知ってもらい、みんなで考えるということが大切だと思います。

委員：何事も多数決で進んでいくことが多いと思いますが、少数の意見を多数側がどれくらい理

解し、直接自分に関係が有る無しに関わらず、自分たちの問題でもあると捉えられるかどうかだと思います。サービスを受ける人と提供する側の当事者だけではなく、圧倒的多数の市民の支持を得る事が必要だと思います。サービスを提供する、そのための資金を投入することの理解を市民から得られるようにすることは市の役割であると思います。

委員長：高齢者福祉の課題、障がい者福祉の課題といったように、分野別の課題として捉え深めていくことも大切ですが、地域福祉(活動)計画では、高齢者や障がい者が抱える課題を地域の課題として捉え、私たちに何ができるか、実践的に考えていくことだと思います。

また、10年後には少数意見が圧倒的な声を占めているかもしれません。互いに排除するのではなく、理解し合えるような合意形成を描きながら、調査結果を読み解いて計画づくりにつなげていければと思います。そのためにも自由回答の記入や問16の地域での課題の記入を丁寧に読み込む必要があります。

委員：地域福祉には担い手づくりがポイントだと思います。一般的に団塊の世代への期待が高いと思いますが、団塊の世代や定年を迎えた世代は実際にどのように考えているのでしょうか。この調査の中で自発的に活動してくれる層が見えてくると良いと思うのですが。

委員長：地域福祉計画においてどの世代をターゲットとすれば甲賀市の中で生きてくるのか、果たして団塊の世代が私たちの思う地域福祉(活動)計画の担い手と成り得るのかどうか、それとも新しい基盤作りが必要なのか、分析する必要がありそうです。

委員：今までの流れでは、地域福祉はボランティアで行うものであり、その担い手として元気な高齢者がターゲットになっています。ですが、使い勝手がいいから高齢者を担い手に、という考えであれば私は反対です。例えば行政からの補助を受けて老人クラブが活動の一つとして動くのであれば納得できます。ボランティアをするのにもお金がかかるのです。それならば、短時間でも高齢者も働くほうが良いと思います。まして行政の姿勢がはっきりしないうちからボランティアばかりをいうのは良くないと思います。ボランティアはある一定まではできますがそれ以上は広がらないと思います。

委員長：地域福祉(活動)計画の策定内容に関わるご意見をいただきました。ボランティア政策に関わる行政の役割は、地域福祉(活動)計画では非常に重要な問題です。このことを念頭におきながら計画づくりを進めていきたいと思っています。

委員：公と私の共有部分については地域福祉計画に関わらず常にでる課題であり、行政と市民の役割分担が見えてこない限り解決しないと思います。甲賀市と市民が共通の観念をもつ必要があります、甲賀市は市民のためにこんなことをしたいと考えています、市民はこんな市になってほしいと思っています、という双方向の意向がやりとりできる流れを作ることが重要だと思います。本計画についてもこの場で完結できることではありませんし、総合計画との連動など、事務局側から積極的に情報を提供してもらいたいと思います。

委員長：総合計画は3月に向けて議論を集約しているところと聞いています。総合計画と地域福祉(活動)計画の情報が事務局を通じて行き来できるようにしていきたいと思っています。

(3) 市地域福祉(活動)計画策定に係る施設・団体調査(案)について

委員長: それでは次に、市地域福祉(活動)計画策定に係る施設・団体調査(案)に移ります。先に説明しました市民調査では、地域の中で抱えている市民の生活実態や暮らしの中で起きている様々な問題を浮き彫りにすることが目的でした。施設調査と団体調査では、地域福祉の推進拠点として、福祉施設や福祉団体はどのような役割や機能を担えるか、あるいは施設や団体そのものが抱えている問題は何かという実態を把握することが目的です。地域福祉の推進拠点として施設や団体が展開していく場合に、行政はどのような支援をしていくのか、また、社会福祉協議会はどのようなネットワークを作っていくのかという政策の方向性を導き出し計画につなげていきたいと考えています。

(地域活動団体調査・福祉団体調査の説明)

委員長: 市民調査や団体調査の結果は、来年度4月以降に行なう23学区小地域での住民ワークショップにおいて意見交換の材料にもしていきたいと考えています。団体調査についてのご意見をお願いいたします。

副委員長: 調査の対象はどのようにして決めるのですか？福祉施設は、社会福祉法人の中から抽出して調査する、また、活動団体は、社会福祉協議会に登録されている団体を対象とするなど、何か調査のベースとなるものは定まっていますか？

事務局: 福祉施設については、高齢者、児童、障がい者の社会福祉施設を対象にし、活動団体は、子ども会や公民館活動、ボランティア団体など市の補助を受けている市民活動団体を対象に考えています。標本数は400～500、対象団体は現在精査中です。

委員: 地域福祉に関係する活動団体は多岐に渡ると思います。例えば環境のグループが福祉を支えるなど他分野とのコラボレーションも多いにありえることですし、実際に行なわれています。調査分析が難しくなる面もあるとは思いますが、活動団体の調査対象はあまり絞り込まずに、できる限り広く考えてほしいと思います。

委員: 第二種福祉施設や福祉施設以外を拠点に活動している団体もあると思います、そうすると活動の拠点は無数にあると思いますが、それについてはどのように考えますか？

委員長: 確かに、地域福祉活動の拠点は社会福祉施設に限る事ではありません。地域福祉(活動)計画の視点でこれらの活動を見るときに、全ての活動拠点にコミュニティーワークの機能を備えることを提起することが重要だと思います。そのためには、コミュニティーワークの手法に熟知した職員が必要であり、職員育成のためのプログラムづくりから始める必要があります。今すぐ実践することは難しいですが、10年先を見据え、計画に盛り込んでいくことに意味があると思います。

委員: 調査票の挨拶文のところに「この計画は住民参加の重視という共通の考え方に立って」とありますが、住民参加が本当に市の基本的考え方なのでしょうか？類似の言い方として、市民参加、住民参画、市民参画もあると思いますが、議論された結果住民参加になった

のでしょうか？住民とすると地域に住んでいる人という狭い意味になるように思います。おそらく地域福祉を支える担い手はもっと幅広く、企画・立案から入り込む積極的なものだと思います。そういう点からすると、住民より市民、参加ではなく参画、つまり、市民参画が適しているように思います。

委員長：住民参加の文言は甲賀市共通の考え方として議論されたことはありましたか？事務局どうですか？

事務局：地域福祉(活動)計画策定指針の中で住民参加という言葉が使われているために用いているのであって、住民参加を甲賀市共通の文言にするといった議論は特にされていないと思います。

委員長：文言については、次回の策定委員会までに議論できるようにしておきたいと思います。

委員：活動団体調査の4-1に活動を進める上での問題点の設問がありますが、団体共通の大きな悩みとして、自分たちの活動がなかなか広がらない、自分たちの活動をみんなにどのようにPRしていけばよいのかという課題があると思います。また、他の活動団体がどのような活動をしていて、それらの団体とどのような接点を持つ事ができるのか、情報の収集が難しいことも連携・協働がうまくいかない要因であると思います。これらの回答は少なくないと思われるので、4-1の選択肢に加えていただければと思います。

委員長：調査票と調査の対象リストが出来上がった時点で皆様にまたご確認をいただきながら進めていきたいと思います。

3 その他

委員長：それでは、甲賀市地域福祉大会について事務局より説明をお願いします。

事務局：この大会の主旨は、2ヵ年かけて進めている地域福祉(活動)計画の策定が1ヵ年過ぎたところでの中間報告としてシンポジウムを開催するものです。(詳細説明)
パネリストには策定委員と地域活動の実践者を組み合わせており、ディスカッションの中から新しい意見や方向も見えてくるのではないかと思います。

委員長：中間報告をすることによって、多くの市民に地域福祉(活動)計画を理解していただき、地域福祉の担い手が広がるとよいと思います。たくさんの方にご参加いただけるよう、声かけをお願いいたします。

副委員長：市民調査から膨大な市民の声があがっています。中には耳の痛い部分もありますが、まずわれわれ委員が十分に読みこなし、これらの調査を地域福祉(活動)計画の基礎資料として意味のあるものにしていきたいと思います。

委員長：その他ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。
それでは第3回甲賀市地域福祉(活動)計画策定委員会を終了いたします。